

## 第13回SPM国際コロキウム/STM'05

筑波大学数理工学物質科学研究科・電子物理学専攻 重川秀実

7月3日-8日の6日間、札幌コンベンションセンターにおいて、第13回SPM国際コロキウム(第19回特別研究会、ICSPM13)が、第13回STM/STS技術および関連技術国際会議(STM'05)と合同で開催されました。本特別研究会は、我が国における表面プローブ顕微鏡(SPM)研究の交流の場として、また新しく関連する分野の仕事を開始する研究者への啓蒙の場として大きな役割を果たしてきたもので、第7回から、国際コロキウムとして毎年開催されてきたものです。一方、STM'05は、本分野を支えてきた最大の国際会議で、1986年に第1回会議がスペインで開催された後、アメリカ、アジア、ヨーロッパの順で行われてきましたが、日本では、第4回、茨城県大洗町で開催されて以来、2度目の開催になります。

参加者は、39ヵ国より759名(運営関係者を含む)で、内訳は、日本447人(59%)、韓国61人(8%)、ドイツ46人(6%)となっています。また、発表件数は、30ヵ国より492論文で、上位3カ国は日本223件(45%)、ドイツ47件(10%)、韓国44件(9%)と、日本で開催した会議であるにもかかわらず半数以上が海外からでした。また、SPM関連企業34社による展示会が併設されました。

初日、「ナノテクノロジーで豊かになろう」と題する市民公開講座が開催され、スタンフォード大学の西義雄教授とケイアンドテイ代表取締役の内山哲夫氏により、講演が行われました。2日目から本会議が始まり、8件のプレナリー講演、24件の招待講演の他、207件の口頭講演、253件のポスター講演が発表されました。

単一スピンを対象とした計測や、バイオ材料の解析、ナノ構造の制御・評価など、ナノテクノロジーの基本技術として、重要な位置をしめている状況を反映し、それぞれの分野で、着実に進展が見られているというのが全体としての印象でした。

Excursionは、登別温泉に向かい、大浴場で裸のつきあいを、また、続くバンケットでは、鏡割り(写真)の後、盆踊りを楽しみながらの歓談で盛り上がりました。会議の詳細、他の写真などは、ホームページ(<http://dora.ims.tsukuba.ac.jp/event/STM05/>)をご覧ください。

STMの国際会議は、NANO会議に発展的に合流してSPM/NANO会議となり、2006年はスイス国バーゼル市(ICN&T2006: [www.icnt2006.ch](http://www.icnt2006.ch))で、2008年は米国西海岸で開催される運びになっています。一方、ICSPM14は2006年に例年通り開催する予定です。次回も夢を追う多くの方の参加をお待ちしています。プロシーディングスは、JJAP2006年3月号に特集号として出版されます。

尚、会議に関して質問等ございましたら、[hidemi@ims.tsukuba.ac.jp](mailto:hidemi@ims.tsukuba.ac.jp)までご連絡下さい。



会場での集合写真



バンケットでの鏡割り:盆踊りに備え浴衣姿の国際諮問委員の面々。右端が徳本洋志組織委員長